

構造化抄録フォーム

番号	“Clinical Question 3-4”-”文献検索フォーム文献リスト 6”
タイトル	インプラント用ステントの形態と材料に関する考察 下顎のオーバーデンチャー症例から
著者名	土田富士夫，細井紀雄，吉田健，今中正浩，小林馨
雑誌 年;巻:頁	日本口腔インプラント学会誌 2002; 15(3): 367-374
目的	CT 撮影用に適したステントについて下顎症例によりその形態と材料を考察する。
研究デザイン	<input type="checkbox"/> meta-analysis <input type="checkbox"/> systematic review <input type="checkbox"/> DB-RCT <input type="checkbox"/> RCT <input type="checkbox"/> CCT <input type="checkbox"/> cohort study <input type="checkbox"/> case control study <input type="checkbox"/> case series <input type="checkbox"/> case report <input type="checkbox"/> others
研究施設	鶴見大学歯学部
対象患者	下顎への歯科インプラント植立患者
介入・検査	X 線 CT
評価項目	臨床的有用性
統計手法	なし
結果	<p>歯科インプラント植立の術前検査として X 線 CT 検査を行うことを前提にした場合の臨床的に受け入れられる下顎症例のステントの要件と製作の概要を報告した。</p> <p>X 線 CT 検査のために、通例のレジン製ステントの内面に X 線不透過性が低いシリコーン製剤（フィットチェカー、GC）を使用し、インプラント体の埋入位置と方向をしめす素材として、金属の代わりにシリコーン系バイト材（メモレグ、ヘレウス）を使用し、ステントを製作した。</p> <p>これを使用して CT 検査をして臨床的有用性を確認した。</p>
尤度比	なし
Odds 比	なし
結論	X 線不透過性が低いシリコーン製剤とシリコーン系バイト材を使用したステントは X 線 CT 検査において障害陰影の発生がなく、粘膜面とステントとの境界、およびインプラント体の埋入位置と方向が描出されて有用であった。
コメント	<p>研究者の経験からくる個人的意見</p> <p>EL-GLGL:VI</p> <p>EL-AHCPR:IV</p> <p>推奨度：B or C</p> <p>検査の有用度の階層分類：E1</p>
記載者	中山英二